

SY1-4

倉吉市における健診システムとペアレントトレーニングの効果

井口 妙子

倉吉市健康福祉部子ども家庭課

倉吉市は鳥取県中部に位置する、人口4万7千人、年間出生児数380名（平成30年3月末現在）の自治体である。「一人ひとりの子どもがいきいきと健やかに育つまち くらよし」を基本理念に掲げ、子どもたちが健やかに育つ地域社会を築くとともに、安心して子どもを産み、子育てに希望と喜びを感じられるまちづくりを目指して、在胎期をスタートとして取り組んでいる。

就学前までのその仕組みを支えるのは、1 幼児健診、2 子育て支援センター及び全公立保育園で実施する親子教室やペアレントトレーニング、3 保育園等所属機関におけるきめ細やかな関わりである。これらを子ども一人ひとりに応じて、またその発達時期に応じて、切れ目のない支援となるように、ポピュレーション・アプローチ、もしくは早期の積極的な支援アプローチとして、庁内関係課（保健センター、子ども家庭課、学校教育課）が連携・協働し、各事業を展開しているところである。その中で、発達障がいによって代表される特別な支援を必要とする児童、そして子育てに苦慮する保護者の相談支援体制整備を試行錯誤の中で取り組んで来た。本シンポジウムでは、当市の取り組みの経過とその効果、また今後の課題等について報告する。

1 幼児健診における取り組み経過

- 1) 支援を必要とする児童への早期の気づきのために～行動面問診票導入～
- 2) 早期の気づきから早期の支援～未就園児と就園児
- 3) 就学に向けて情報共有の仕組み

2 全公立保育園におけるペアレントトレーニング（子育て教室）

- 1) 子育て教室の実施方法
- 2) 子育て教室の効果と課題

3 当市が抱える課題と今後の方向性